

2校化でも複式学級

臨海地域
4小学校 教育長が見通し
市会委

福井市の吉川雄二教育長は17日の市会予算特別委員会で市学校規模適正化検討委員会の答申について、仮に臨海地域の鷹巣小と長橋小、国見小と越廼小がそれぞれ統合した場合でも、複式学級が解消できない可能性が高いとの認識を示した。

【2面に本記】
池上優徳委員(一真会)への答弁。

鷹巣小と長橋小が統合した場合、2028年の児童数は45人、国見小と越廼小が統合すると46人になるとの予測を示し、1学年の児童数は7〜8人程度と見込まれることから、吉川教育長は「状況を見ると、複式学級ができる可能性は高い」と述べた。

市学校教育課によると、複式学級は2学年で児童数が16人以下(1年生を含む場合は8人以下)となる場合が対象。鷹巣、長橋、国見、越廼の4小を統合した場合、28年の児童数は91人で、複式学級は解消される

との認識を示した。

中学校については、国見と越廼が統合した場合、28年の生徒数は29人、鷹巣中は同年で34人と予測している。3校を統合した場合の生徒数は同年で63人。

検討委の答申では、臨海地域の小学校は2校化などに向けた速やかな協議が必要とし、同地域の中学校も併せて再編の協議を進めるのが望ましいとしている。

(菅野佑斗)